

2020 年 1 月 28 日

報道関係各位

茨城交通株式会社
株式会社みちのりホールディングス
株式会社日立製作所
株式会社ナビタイムジャパン

日立市において MaaS 実証を開始 ―官民連携によって地方交通課題に取り組む―

茨城交通株式会社（本社：茨城県水戸市 代表取締役社長：任田正史、以下「茨城交通」）、株式会社みちのりホールディングス（本社：東京都千代田区 代表取締役グループ CEO：松本順、以下「みちのり HD」）、株式会社日立製作所（本社：東京都千代田区 執行役社長兼 CEO：東原敏昭、以下「日立」）等で構成される日立市新モビリティ協議会¹は、2020 年 2 月より日立地域において MaaS²の実証実験をスタートします。本実証は、国土交通省の「新モビリティサービス推進事業」および経済産業省の「スマートモビリティチャレンジ」の採択を受け、行うものです。

本実証は、都市部のように交通手段が充実しておらず、自家用車への依存度が高い地方部において MaaS の導入により公共交通の利便性を高め、地域における社会課題の解決をめざすものです。具体的には①通勤時、自宅近辺のバス停を指定できる「通勤型デマンドサービス」の運行、②「大沼 BRT」バス停と大沼エリアの間を相乗りタクシーで送迎する「ラストワンマイル型デマンドサービス」を提供します。これらのサービスは、株式会社ナビタイムジャパン（本社：東京都港区 代表取締役社長：大西啓介、以下「ナビタイムジャパン」）の技術を活用し開発した MaaS アプリ「Hitachi City MaaS Project」にて予約できます。

本地域では、国土交通省および経済産業省連携事業の「ラストワンマイル自動走行実証事業」として 2018 年度、ひたち BRT³にてバスの自動運転実証を実施しましたが、2020 年度も実証実験を行う予定です。日立市では、これらによって人口減少社会における次世代の公共交通の実現に向けた取り組みを進めています。

¹ 茨城交通株式会社、電鉄タクシー株式会社、株式会社みちのりホールディングス、株式会社日立製作所、茨城県、日立市、株式会社常陽銀行、茨城大学により構成

² Mobility as a Service：ICT 技術の活用により、自家用車以外の交通手段による移動を一つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな移動の概念

³ Bus Rapid Transit：バス専用道等を組み合わせることで、速達性・定時制の確保や輸送能力の増大が可能となる可能となる高次の機能を備えたバスシステム

本実証では、まず1月28日から、茨城県内の移動手段を検索できるアプリ「Hitachi City MaaS Project」⁴をリリースします。本アプリは、ナビタイムジャパンの経路検索技術と交通データを活用し、茨城県内の既存の鉄道、バス、BRT、タクシーと徒歩を組み合わせた目的地までの一元的な経路検索が可能です。また、2月3日～28日の間に実証運行する「通勤型デマンドサービス」（日立グループの事業所通勤者のみ対象）と「ラストワンマイル型デマンドサービス」を予約することができます。さらに、アプリの利用者は、アプリ限定発売の「日立市内バス一日乗り放題券」の購入も可能です。なお、アプリダウンロード数は500件程度を想定しております。



図1.実証実験 Web ページの QR コード

【MaaS アプリ「Hitachi City MaaS Project」】

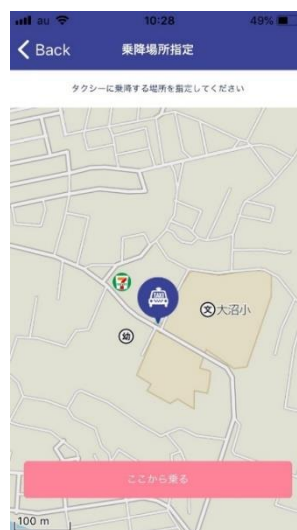
- ・提供期間：2020年1月28日（火）～2020年2月28日（金）
- ・価格：無料
- ・対応 OS：Android OS/iOS
- ・主な機能：
 - ① 既存交通手段を繋ぐ経路探索：茨城県内全ての既存交通手段を組み合わせた一元的な経路を案内
 - ② 域内の新たな交通手段の予約：「通勤型デマンドサービス」と「ラストワンマイル型デマンドサービス」の予約（デマンドサービスの利用は、2月3日～28日までです。）
 - ③ 日立市内バス一日乗車券の購入（2月中旬より機能追加予定）：路線バスおよび BRT バス一日乗車券を購入可能（1枚当たり 700 円）



トップ画面



通勤型デマンド
サービス予約画面



ラストワンマイル型
デマンドサービス
乗車場所指定画面



経路検索画面

図2.「Hitachi City MaaS Project」の画面仕様

⁴ 図1のQRコードおよび実証実験 Web ページ (<https://hitachi-city-maas-project.navitime.jp/app/index.html>) よりダウンロード可能

【日立地域 MaaS】



	域内の新たな交通手段	
	通勤型デマンドサービス	ラストワンマイル型デマンドサービス
内容	予約されたオンデマンドバス停と勤務地の間を送迎するデマンドバス	バス停「大沼BRT」と自宅の間を送迎するタクシー
ターゲットユーザー	勝田～東海エリア在住の日立グループ社員	大沼エリア居住者・来訪者

図 3.日立地域 MaaS の概要

●通勤型デマンドサービス

通勤型デマンドサービスは、日立グループの社員のみを対象とした、朝夕 1 便ずつ運行するデマンドバスです。朝は、勝田・東海エリアを出発し、大みか事業所など日立製作所の事業所を経由して、日立研究所まで運行します。夕方はその逆のルートを実行します。ルート上にオンデマンドバス停を多数設置しているため、利用者は自宅の近くで乗降することができます。利用者は、アプリから乗降を希望するバス停を指定して予約し、バスは予約のあるバス停にのみ停車します。運賃は片道 500 円で、アプリ上で決済します。

●ラストワンマイル型デマンドサービス

ラストワンマイル型デマンドサービスは、茨城交通のバス停「大沼 BRT」を利用される住民の方などを対象に運行するラストワンマイル型のサービスです。利用者がアプリから予約すると、無料タクシーがバス停と自宅の間を送迎し、予約が複数入れば、相乗りで運行します。



図 4.ラストワンマイル型デマンドサービスのタクシー車両

【日立市における移動データの見える化】

本アプリの利用データや交通機関の運行データの可視化・分析を実施します。将来的には、新たなモビリティサービスの導入や MaaS による交通サービスの連携の計画、実績の評価等により、都市全体で公共交通を最適化するためのデータプラットフォームの提供をめざしています。

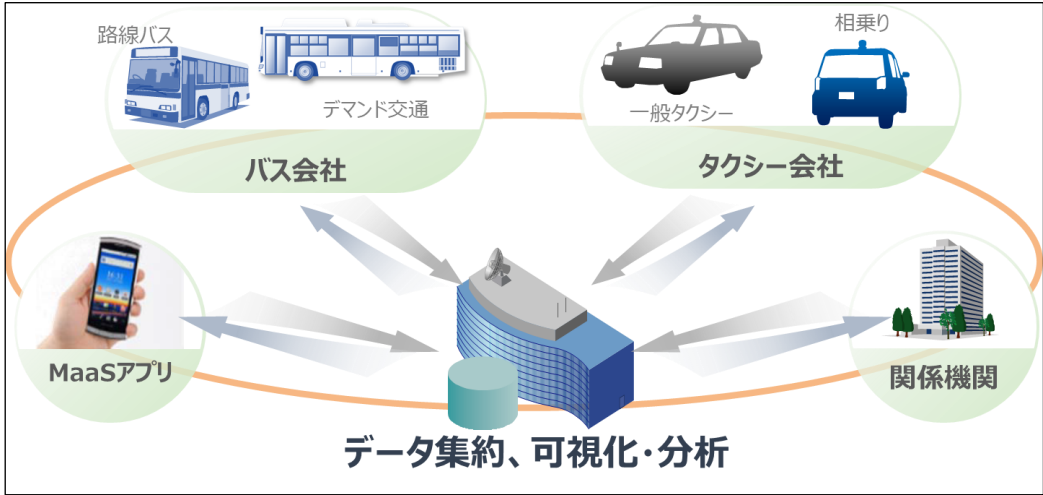


図 5.運行データ可視化・分析の概念図

【日立市における今後の展望】

日立地域における MaaS の取り組みでは来年度以降もサービス機能の強化、参加事業者の拡大、新たな交通手段の提供をすることで、利便性の改善、サービス拡充を図っていきます。また、MaaS アプリに必要なデータやシステム利用環境を整備することで、他地域で開発が進む多様な MaaS アプリでも日立エリアでサービスが利用できるように、オープン化することをめざしています。日立地域を起点とした面的な取り組みにより、地域交通の高度化に向け、持続可能なビジネスモデルの構築をめざします。

【各社の役割】

茨城交通株式会社	・協議会の組成・開催 ・実際の運行に係る業務 ・バス利用者への実証実験の告知
株式会社みちのりホールディングス	・実証計画の策定 ・サービス・アプリの仕様設計 ・新モビリティサービス事業の採算性分析
株式会社日立製作所	・システム開発取りまとめ ・移動データの可視化システムの開発 ・通勤型デマンドサービス実証実験への協力
株式会社ナビタイムジャパン	・MaaS アプリの開発 ・デマンドサービスの運行ルート確定におけるシステムの開発 ・デマンドサービスのドライバー向けカーナビアプリの開発 ・実証実験 Web ページと販促物のデザインと制作

※本取り組みは以下の会社の協力のもと推進しています。

- ・株式会社モーション：デマンド交通関連機能の開発・GTFS（General Transit Feed Specification：公共交通機関の時刻表と地理的情報に関するオープンフォーマット）データの生成

【報道関係お問合せ先】

- 茨城交通：日立オフィス運輸部

担当：仲野・増田 tel 0294-32-7380

- みちのり HD :広報

担当：工代（くだい） tel 03-6250-1075

- 日立製作所：インダストリー事業統括本部 事業戦略統括本部

ブランド・マーケティングコミュニケーション部

担当：早川・川田 tel 03-5928-8104